



安全・安心をお届けします。

平成 28 年 2 月 10 日

グリーンプロジェクト情報 第1号

きらきら Eyeランド

J A 庄内みどり

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

自信の持てる作業手順ですか？ 春作業まで今一度確認を！

昨年は、育苗期間後半の高温多照の影響により「ばか苗病」の発生が、例年より多く見られました。昨年発生した箇所を中心に今年も発生が懸念されることから、種子消毒、浸種、催芽等の各種作業手順を今一度確認し、発生を防ぎましょう。

平成28年度 水稲育苗作業計画

作業名	作業月日
塩水選	3月25日(金)～26日(土)
種子消毒	3月25日(金)～27日(日)
浸種	3月26日(土)～
催芽	4月8日(金)～12日(火)
播種	平坦4月10日(日)～17日(日), 中山間4月16日(土)～20日(水)
田植	平坦5月7日(土)～13日(金), 中山間5月13日(金)～20日(金)

春先は作業が集中します。正確な記録の為、農作業記録野帳への記帳を忘れずに！！

技、其の一 「ばか苗病」対策のポイント「共通事項」！

- ①作業場所やその周辺から伝染源となる稲わら、籾殻、米ぬか、粉塵等を除去し、十分掃除をする。
- ②昨年「ばか苗病」の発生が見られた場合は、種子消毒、浸種、催芽に使用する機器並びに容器（桶、育苗箱）はすべて「イチバン」（500～1,000 倍液で瞬時浸漬または散布）等で消毒する。

③より良い種子を塩水選で選びましょう。

品種	塩水選の比重	水10%当たりの目安	
		塩 (kg)	硫酸 (kg)
うるち	1.13	2.1	3.0

☆特に塩水選の際には、必ず採種地の確認をして、忘れずに産地・採種地ナンバーを生産記録書に記入しましょう。

☆品種の混入に注意して下さい。

※催芽袋での色分け、名札等でハッキリ確認できるようにしましょう。

☆塩水選後は、水道水で良く洗いましょう。

☆温湯消毒をする方は塩水選をしないで下さい。

④催芽袋に種子5kgずつ、ゆとりを持たせ詰める。

⑤浸種時、容器には直射日光による急激な温度上昇を避けるため、「蓋」をする。またハウス内での浸種は水温が高くなる傾向があるので行わない。

⑥浸種は日陰で適切な水温（10℃以上～15℃未満）の真水に静かに浸し、浸種を開始する。浸種中の水温は15℃未満とし、積算水温100～120℃を目安にする。種子が露出しないよう浸種水量（種子の3倍以上：乾籾10kg当たり水量30ℓ以上）を十分確保する。消毒方法の異なる種子は同じ容器で浸種・催芽しない。

⑦催芽温度は30～32℃とし、温度が低すぎても高すぎても「ばか苗病」の発生を助長する為、温度計を設置し確認する。（催芽機を使用する場合は機械を過信せず、温度計で必ず確認する。）

⑧育苗施設及び周辺では、生わら、籾殻を使用しない。

⑨生焼けのくん炭は育苗床土には使用しない。また、種もみが露出すると発生を助長するため、丁寧な覆土直しを行う。

⑩無加温育苗の場合、出芽時（30～32℃）、緑化期（昼：20～25℃、夜：10℃以上）、硬化期（昼：15～20℃、夜：5℃以上）を目安とする。温度が高いと「ばか苗病」の発生が多くなりやすいので、温度管理を徹底する（「ばか苗病」の生育適温は27～30℃）。

技、其の二 スポルタック乳剤の使用手法！

- ①薬液量は、乾燥籾重量の 2 倍以上の容量の希釈薬液を準備し「よくかき混ぜる」こと。
(乾籾 10kg の場合、20ℓ 以上の薬液が必要。)
- ②水温は 10℃以上～15℃未満を厳守する。(日にちにこだわらず、天気予報を確認して比較的暖かい日に実施する。)
- ③薬液の倍率は、水 100ℓ に対し薬剤 100ml の 1000 倍を厳守する。
(乾籾 50kg 分)
- ④薬液に漬ける際は、催芽袋を一つ一つに中まで染み渡るように、3～4 回ゆすってから容器に沈め、24 時間浸漬する。
- ⑤消毒終了後は風乾せず、すぐ水温 10℃以上～15℃未満の真水に静かに浸し、浸種を開始する。薬剤効果の安定を図る為に、浸種開始 3 日間は水の交換はしない。
- ⑥太陽光が直射する日向では、薬剤成分の分解と薬液の温度が上がる為、日よけを行うか、室内（日陰）で行う。
- ⑦きれいな水道水を準備し、水交換は 3 日に 1 回程度行い、かけ流しや頻繁な交換はしない。
- ⑧ハトムネ催芽機を使用する際の「催芽」は、機械を過信せず温度計を設置し、確認する。

技、其の三 テクリード C フロアブルの使用手法！

- ①②④⑥⑦⑧は、スポルタック乳剤と同様ですが、倍率、消毒後の管理に違いがあります。下記内容について注意下さい。
- ③薬液の倍率は、水 100ℓ に対し薬剤 500ml の 200 倍を厳守し、24 時間浸漬する。(乾籾 50kg 分)
- ⑤消毒終了後は 2～3 日陰干し風乾後、水温 10℃以上～15℃未満の真水に静かに浸し、浸種を開始する。薬剤効果の安定を図る為に、浸種開始 3 日間は水の交換はしない。その後は 2～3 日おきぐらいに交換する。
※ハトムネ催芽機やエアレーション付の水槽などで浸種すると、黒色の粘性物が発生する場合がありますので使用しない。

技、其の四 温湯消毒種子の取扱手法！

- ①温湯消毒後は直ちに水道水を用いて浸種する。直ちに浸種できない場合は脱水した後、風通しのよい冷暗所に広げて保管し、適切な時期に浸種を開始する。
- ②浸種期間中は菌を増殖しにくくするため、2～3 日に 1 度は水交換する。
- ③循環式ハトムネ催芽機で催芽すると「ばか苗病」の発生が多くなる場合がありますので留意する。
- ④温湯消毒した種子と薬剤消毒した種子の「浸種・催芽・播種」は、別々に取り扱う。

種子と一緒に配布されている作業チェックリストを活用して、「ばか苗病」の発生を未然に防ぎましょう！！